

|         |                                   |
|---------|-----------------------------------|
| 氏名      | 杜 富 林                             |
| 授与した学位  | 博 士                               |
| 専攻分野の名称 | 農 学                               |
| 学位授与番号  | 博甲第2947号                          |
| 学位授与の日付 | 平成17年 3月25日                       |
| 学位授与の要件 | 自然科学研究科資源管理科学専攻<br>(学位規則第4条第1項該当) |
| 学位論文の題目 | 中国内モンゴルにおける持続可能な牧畜業に関する研究         |
| 論文審査委員  | 教授 品部 義博 教授 北村 修二 教授 赤江 剛夫        |

#### 学位論文内容の要旨

本研究は、典型的な牧畜業地域である内モンゴル草原牧畜地域、半農半牧地域における牧畜業を対象とし、主に牧畜業の基本単位である農家経営とその草地利用に視点をあてながら持続可能な牧畜業の展開を明らかにすることを目的としている。また、地域農牧畜業の持続可能な発展を図ろうとして国、地方により実施された生態再生政策が農家経営にどのような影響を与えているか、これについて農家はどのように評価しているのかについても検討を行っている。

第1章では、内モンゴル牧畜業の全体的データ、資料を用い、牧畜業の動向および全国での位置付け、牧畜業形態の変遷を明らかにすると共に、草地類型、地域区分と牧畜業の特徴との関連を分析することを通して草地利用における問題とその要因を検討した。また、生態再生政策の展開と内モンゴルの全国での位置付けを示した。

第2章では、異なる草地類型、即ち草甸草原から典型草原に変わる交差地域と典型草原から荒漠草原に変わる交差地域における牧畜農家との聞き取り調査、現地調査に基づき、草原牧畜地域における牧畜農家の経営と草地利用形態の現状を明らかにした。

第3章では、生活水準が相違である地域における農家との聞き取り調査、現地調査に基づき、半農半牧地域における農家の牧畜業経営の現状を明らかにした。

第4章では、退耕還林還草政策が実施されている半農半牧地域における退耕農家へのアンケート調査、聞き取り調査、現地調査に基づき、退耕還林還草政策の展開過程とこの政策が実施された地域における農家の生産・生活面での影響および政策に対する農家の意向を明らかにした。

以上の分析から、草地利用の工夫や家畜の品種改良などによって貧困問題の深刻化を抑えること、退耕還林還草政策と退牧還草政策の安定性と長期性を図ること、などが今後の内モンゴルにおける持続可能な牧畜業の展開を図っていく上での課題であることを示した。

## 論文審査結果の要旨

内モンゴル牧畜業においては、人口増加、過放牧、農耕文化の浸透、中国経済の急速な発展に加え干ばつ災害などにより、草地の退化・砂漠化、土壌流出が深刻化している。これは牧畜業の生産基盤を揺るがすものとなっているばかりか、砂嵐の原因ともなって広く近隣諸国にまで影響を及ぼすに至っている。本研究は、牧畜業の基本単位である農家にまで立ち入ってその経営と草地利用の実態を明らかにすることを通して、深刻化する草地の砂漠化の社会経済的要因を解明し、もって草地の再生を図りながら牧畜業の発展を可能とする条件の検討を行おうとしたものである。

本研究は、まず内モンゴル牧畜業に関する既存の研究、統計に基づき、放牧と草地利用が歴史的にどのような形態をとって展開してきたのか整理する。そして近代に入って草地面積が制約条件となって定住化が進むとともに、草地の退化と貧困との悪循環が発生し深刻化してきたことを指摘する。つづいて、内モンゴル牧畜業が草原牧畜地域と半農半牧地域とでは異なる内容で存在していることに着目し、それぞれの地域における農家牧畜業経営の分析を行う。草原牧畜地域については、請負制が進み、またその過程で借地に依存する大規模経営が登場していること、彼らは確保した剰余を投資し草地の計画的な利用を可能とする区分輪牧を採用しつつあることを、草原牧畜地域に比較し草地面積の制約がより大きい半農半牧地域については、所得面から畜産への傾斜が進みつつあること、しかし草地は請負化が進まず今なお共同利用となっている地域もあること、そのことから草地の一層の過度利用が懸念されることを指摘する。なお、本論文は半農半牧地域で行われている生態再生を目指す退耕還林還草政策についても、その実施過程を詳細に分析し、その効果と意義を論じている。

以上、本研究が明らかにした点は、学問的に興味深く、加えて政策の場においても活用が期待される有用なものである。よって本論文が博士の学位論文に値するものと認定する。